

常照

第 870 号

先月号に続き、記念法要お待ち受け巡回「仏教人生講座」における川村妙慶先生のお話を先生の許可をいただき三回に分けて掲載致します。その二回目。

私たちは何を求めて生きていくのか (二)

●戦わないという教え

前号では、私たちが答えを求めて生きてしまう姿についてお話いたしました。今回はそこから一步進んで、親鸞聖人の教えの大切な一面である「戦わない」ということについて考えてみたいと思います。

私たちは日常の中で、つい相手と争って

しまいます。「自分は正しい」「相手が間違っている」と思った瞬間に、心の中に対立が生まれます。そしてその対立は言葉となり、態度となり、人間関係をぎくしゃくさせてしまいます。しかし親鸞聖人の教えは、そうした争いの中で勝つことを目指すものではありません。むしろ「戦わなくてよい道」を示してくださっているのではないのでしょうか。では、なぜ私たちは戦ってしまうのでしょうか。それは自分の正しさにこだわること、つまり自我があるからです。「自分が正しい」という思いが強ければ強いほど、相手を認めることが難しくなります。そして相手を変えようとすることで、さらに対立が深まってしまふのです。

ここで大切なのは、相手を変えようとするのではなく、「相手の性分を知る」ということです。人にはそれぞれ性格や考え方の癖があり、それは簡単に変わるものではありません。相手の本質を見抜くことができれば、「なぜこの人はこういう言い方をする

のか」「なぜこういう態度をとるのか」と理解することができ、無用な争いを避けることができるのです。

●身近な出来事から学ぶこと

私自身の経験を一つお話させていただきます。私は住職と結婚して二十年になりますが、正直に申しますと、考え方が合わないと感じることが多くあります。ある時、夫が咳をしていたので、私は風邪だと思い薬を差し出しました。すると夫は「医師免許もないのに、なぜ風邪だと言えるのか」と言うのです。普通であれば、「せっかく心配しているのに」と腹が立ちます。しかしここで「なぜこの人はこういう言い方をするのか」と問いを持つことが大切でした。後に夫と幼なじみの方から、「彼はプライドが高く、自分で納得しないと受け入れられない性格だ」と教えられました。

そのことを知ったとき、私は初めて「相

手を自分の基準で判断していたのではないか」と気づかされました。そして見方が変わると同時に、それまで感じていた苛立ちや不満も、少しずつ和らいでいったのです。

その結果、相手を責めるのではなく、「そういう性分なのだ」と受け止めることができるようになりました。そして伝え方を変えることで、関係も変わっていききました。人は変えられませんが、関わり方は変えることができるのです。

●逆縁が導く人生

私の人生もまた、思い通りには進みませんでした。もともとはアナウンサーを目指しておりましたが、父の死をきっかけに状況が一変しました。門徒は離れ、兄は引きこもりとなり、寺は存続の危機に陥りました。そして私が寺を継ぐようにと言われたのです。当時の私は強く反発しました。「なぜ自分が」と思い、現実から目を背けよう

としていました。しかし後になって振り返ると、その出来事がなければ、私は仏教の道に出会うことはなかったのです。

仏教ではこれを「逆縁」と言います。自分にとって都合の悪い出来事、受け入れがたい出来事であっても、それが縁となって人生を導くことがあります。良いことだけが縁ではありません。むしろ苦しみや困難こそが、私たちに大切な気づきを与えてくれるのです。

また、アナウンサー試験で親友が採用され、自分が落ちたとき、私は強い嫉妬に苦しみました。「なぜあの人か」と思いました。しかし冷静に見たとき、「自分が選ぶ側でも彼女を選ぶ」と思えたのです。その瞬間、相手を認めることができました。

●見方が変わると生き方が変わる

同じ出来事であっても、見方が変わればその意味は大きく変わります。苦しみでし

かなかったものが、気づきを与える出来事へと変わることもあるのです。相手を責める心から、自分を見つめる心へと変わったとき、私たちの生き方は大きく変わってきます。

戦うことをやめるというのは、相手に負けることはありません。自分の中のこだわりや執着に気づき、それを手放していくことです。そのとき初めて、人との関係の中に穏やかさが生まれてきます。

私たちは日々、さまざまな出来事の中で揺れ動いています。しかしその一つ一つが問いとなり、縁となって、私たちを導いています。どうかそのご縁を大切に受け止めながら、日々を歩んでいただきたいと思っています。

(次号に続く)

妙慶さんの

「心がほっとする講座」





対談

御本山の御門主様方も御臨席されます

日時 2026年6月20日(土)

会場 浄土真宗本願寺派札幌別院
(西別院)本堂

(札幌市中央区北三条西19丁目2-1)

※お車の方は近隣駐車場をご利用下さい。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 FAX (0114) 221-1171
一四〇七四番
一六八〇番
一六八〇番

◎お電話でもお申込みできます！

講師 釋 徹宗氏
(相愛学園学園長・武蔵野大学総長)

対談者 堀ちえみ氏
(歌手・タレント)

参加費 1人 3,000円 (当日バスにて)
※サンドイッチ・ジュース付

小樽からのバス参拝

令和8年6月20日

12時 おたる宝泉寺出発→
おたる西別院経由 12:15→
札幌西別院行き 13時到着

- ・宝泉寺は自家用車駐車不可
- ・小樽西別院は自家用からの乗換・駐車可能です
- ・札幌西別院出発は16:30頃予定
- ・定員40名になりしだい締め切ります

いのち、あなたが大切！

記念法要参加者募集



北海道
真宗教団連合

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年
結成五十周年 真宗各派御宗主御臨席



お申込みはこちら
又は、お寺に電話

※現地へ直接参加の方は、1人 1,000円です (当日受付にて)